



編集・発行 邑楽町役場企画課  
〒370-0692 (住所記入不要)  
☎ 0276-88-5511 (代表)  
☎ 0276-47-5007 (企画課直通)  
☎ 0276-89-0136  
URL <http://www.town.ora.gunma.jp>  
E-mail [koho@town.ora.gunma.jp](mailto:koho@town.ora.gunma.jp)

邑楽町携帯サイト  
2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。  
携帯用URL <http://www.town.ora.gunma.jp/k>



〈第二十七回〉

若い人たちに語り継ぎたい、  
次の世代に残しておきたい。  
貴重な話をお届けします。

## あすへひとこと

「邑楽町の昔ばなし」より

### 弘法様の爪彫り弁天



町内外を問わず、多くの参拝客が訪れる浮島弁財天(多々良沼公園内)

どんよりと曇った空からは、今にも白いものが落ちてくるような寒い日のことでした。いまの中野の地に一人暮らしの老婆がいました。「こんな日には、早寝をするに限るで」と、つぶやきながら、日が西山に落ちるのもどかしげに、野良仕事もそこそこに切り上げ、夕食をすませ布団に潜り込んでいました。

そのとき、静かに雨戸をたたく者がいました。「こんな寒い晩に、一体誰かな」と、いぶかしく思いながら雨戸をあけると、そこには夜目にも破れ衣と分かる身なりの旅僧が立っていました。「何かご用で」と問うと、「無駄ながら、一夜の宿をお願いしたいのです」と言って、深々と丸い頭を下げました。

それを聞くと老婆は何のためらいもなく、「見るとおり狭苦しいところですが、どうぞ」と家に入れ、白湯を勧め、話が咲いてくると粥まで振る舞いました。見ず知らずの旅僧になんの疑いもかけず、その上このようなもてなしに感激した僧は、傍らにあった厚めの木の板を取り、一晩中まんじりともしないで、一心に弁天様を刻みました。

でしよう」と伝えると、いずこともなく立ち去りました。

その後、何年かたつて、この村に疫病が入り、村人は次々重い病気で倒れました。困った村人たちは、旅僧の教えどおり二ツ橋というところに弁天様を祭り、日参しました。すると、疫病はたちどころに村から退散しました。弁天様のご利益を目の当たりにした人々は、みんな有り難い弁天様をますます信仰するようになりまし。ところが、ある年の大水で無残にも社ごと向野(鶴新田)に流されてしまいました。

こうしたことが再三起きたので村人は相談の末、多々良沼に面した向野突端の浮き島に弁天様を祭り、社を建て「浮き島弁天」と、よんだそうです。こうして、この弁天様は鶴、鶴新田の守護尊となりました。弁天様の春秋の祭礼、とくに戊巳(つちのえ・み)年には大開帳を行い、その中間の三〇年目には半開帳といって、大変な賑いででした。今も弁天様は土地の人たちから信仰されています。

その昔、老婆に一夜彫りの弁天様を残してくれた旅僧は弘法大師であったといわれます。弁天像は「弘法大師爪彫り弁天」と称して鶴の恩林寺に秘蔵されています。また、この像は鶴新田の鶴古城の守護仏として江の島弁天を勧請したものだという説もあります。

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会  
平成10年12月31日発行「高齢者の語り(第六集)あすへひとこと」より



孫兵衛川に  
コウホネ咲く  
(ふれあい橋付近)



Photo 高根澤高明(記録ボランティア)

### ひとりごと From editors

▶今年の4月、企画課内の異動で26年振りに、広報を担当することになりました。私が担当していた頃は、パソコンなどない時代で、アナログの一眼レフで写真を撮り、原稿用紙に記事を書き、レイアウト用紙に定規と鉛筆で、記事と写真を割り付けていました。私の次の担当者が、パソコンによる編集に切り替えて現在に至っています。▶今やパソコンなどのデジタル機器がないと仕事ができない状況です。この4半世紀で大きく様変わりしました。情報機器の発達はめまぐるしくて、正直なところ旧態依然の私では、ついていけないこともしばしばです。▶情報関係も担当に加わりました。梅雨明け後の猛暑と同様、私の頭もヒートアップ中です。熱を下げる方法、教えてください。(橋圭)



この広報誌は、自然保護のため  
植物油インキを使用しています。